

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道208号 <small>たまな</small> 玉名バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局				
<b>起終点</b> 自：熊本県玉名市寺田字榎原 <small>たまなしでらだ えのきばる</small> 至：熊本県玉名市岱明町開田 <small>たまなしたいめいまちひらきだ</small>	<b>延長</b> 8.5km					
<b>事業概要</b> 国道208号玉名バイパスは、玉名市街地及び周辺地域の交通混雑の緩和や交通安全の確保及び各種地域プロジェクトを支援し、地域経済活性化に寄与することを目的とした延長8.5kmの道路である。						
S49年度事業化		S57年度都市計画決定				
S61年度用地着手		H元年度工事着手				
<b>全体事業費</b>	約340億円	<b>事業進捗率</b>				
		91%				
		<b>供用済延長</b>				
		8.5km				
<b>計画交通量</b>						
12,300～21,900台/日						
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <b>B/C</b>  <small>(事業全体)</small> 0.9   <small>(残事業)</small> —                 </td> <td style="width: 50%;"> <b>総費用</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small>                      —/457億円                      (事業費：—/435億円)                      (維持管理費：—/23億円)                 </td> </tr> </table>	<b>B/C</b> <small>(事業全体)</small> 0.9  <small>(残事業)</small> —	<b>総費用</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> —/457億円 (事業費：—/435億円) (維持管理費：—/23億円)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <b>総便益</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small>                      —/411億円                      (走行時間短縮便益：—/365億円)                      (走行経費減少便益：—/31億円)                      (交通事故減少便益：—/16億円)                 </td> <td style="width: 50%;"> <b>基準年</b>                      平成22年                 </td> </tr> </table>	<b>総便益</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> —/411億円 (走行時間短縮便益：—/365億円) (走行経費減少便益：—/31億円) (交通事故減少便益：—/16億円)	<b>基準年</b> 平成22年
<b>B/C</b> <small>(事業全体)</small> 0.9  <small>(残事業)</small> —	<b>総費用</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> —/457億円 (事業費：—/435億円) (維持管理費：—/23億円)					
<b>総便益</b> <small>(残事業)/(事業全体)</small> —/411億円 (走行時間短縮便益：—/365億円) (走行経費減少便益：—/31億円) (交通事故減少便益：—/16億円)	<b>基準年</b> 平成22年					
<b>感度分析の結果</b> なし。						
<b>事業の効果等</b>						
①所要時間信頼性の向上 ・国道208号(現道)の交通混雑の緩和 ・国道208号(現道)の混雑度の低下(H21:1.4 ⇒ H22全線暫定2車線供用後:1.3) ・国道208号(現道)の損失時間の削減(現況:61.7万人時間/年 ⇒ H42推計値:19.3万人時間/年) ・所要時間の信頼性の向上による便益【24億円※】						
②交通安全性の向上 ・国道208号(現道)の死傷事故率が低下(現況:150件/億台 <sup>キ</sup> ⇒ H42推計値:113.2件/億台 <sup>キ</sup> ) ・国道208号(現道)の死傷事故件数が減少(現況:98件/年 ⇒ H42推計値:74件/年)						
③地域開発計画の支援 ・九州新幹線「新玉名駅」と周辺地域との連携を強化 ・九州新幹線の開業に伴い通勤圏域が拡大 ・長洲町役場から新玉名駅への所要時間が短縮(約5分)						
④救急医療活動の支援 ・第二次救急医療施設への救急搬送を支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口(約5分、約76,000人) ・救急医療活動のアクセス向上便益【16億円※】						
※は供用後50年間の便益額として試算した値(参考値)						
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 玉名市をはじめとする2市1町で構成される「玉名バイパス整備促進期成会(会長:玉名市長)」等により早期整備の要望を受けている。(平成23年2月)						
<b>県知事の意見</b> 本路線は、本県の県北地域の地域間交流や連携を促進する路線であり、九州新幹線新玉名駅のアクセス道路として、新幹線開業効果を県北地域に波及させるうえで、最も重要な路線でもあります。 玉名バイパスの全線開通は、交通の分散による玉名市街地の交通渋滞緩和や交通安全の向上が効果として期待されていたところであり、既に、現道における渋滞の改善効果が現れております。 今後の4車線化につきましては、「対応方針(原案)」のとおり、開通後の地域交通状況等を踏まえ、検討いただきますようお願いいたします。 また、残事業として用地国債の債務償還及び埋蔵文化財調査のみであることから、「対応方針(原案)」案の「継続」について異存ありません。						
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、事業継続。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

玉名市及び周辺地域の人口は減少傾向にあるものの、自家用車による通勤通学の割合が7割以上を占めるなど、日常生活における自動車への依存は依然として高い。今回、玉名バイパスの全線暫定供用により、国道208号（現道）の交通量が約3割減少している。

また、玉名バイパスは、九州新幹線「新玉名駅」へのアクセス道路として位置づけられている。（平成23年3月12日、九州新幹線全線開業）

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約91%であり、そのうち用地進捗率は約83%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

本事業は、平成23年2月26日に全線暫定2車線（8.5km）供用済みであるが、用地国債（再取得：いわゆる債務償還）及び埋蔵文化財調査のみを残していることから継続することとし、その対応の終了をもって完了とする。

施設の構造や工法の変更等

・当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約47億円】

対応方針 見直し継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。